

Jupiter

ジュピター

2022
秋号
VOL.48

岡山県精神科医療センター理念 | 人としての尊厳を第一に安心・安全の医療をめざします。



当センターのシンボルマークは
安心・安全の医療を表しています

ノアの方舟で主人公ノアがハトを放ち、オリーブの葉をくわえて船に戻ってきたところを表しています。安住の地を求めて、安心・安全の医療を追求し進んでいくことをシンボライズしています。

CONTENTS

2 それいけ！臨床研究部

CEO Motoshi Yasuji

3 タウンサークル便り

4 看護部 部署報告会

4 医療観察法と司法精神科作業療法 「臨床ハンドブック」

5 新任者研修 〜依存症と発達障害の看護〜

5 安全運転研修 ポッチャ大会開催

6 人薬ーひとぐすりー 第六回 副院長／東(司法精神)入院棟 医長・石津すぐる

7 地域連携室だより 読書の秋

8 EVENT REPORT

・東古松サント診療所 デイケア
・岡山県精神科医療センター デイケア



表紙写真：院内に咲く金木犀と
入院患者さんの作品

それいけ！臨床研究部

最近、クロザピンの血中濃度測定が診療報酬化されました。しかし、一体何がどうすごくて、どう世の中が変わったのが謎です。今回は、その立役者である臨床研究部・治験班班長・北川航平薬剤師に医療技術課長・矢田勇慈が突撃インタビューしました。



北川薬剤師(左)と矢田医師(右)

のモチベーションも非常に高まりました」
矢田「診療報酬化されて何が変わったのですか？」
北川「最寄りの外注検査セン

ターで血中濃度が測れるようになり、全国の患者さんが当センターと同じメリットを受けられることができるようになりました」
矢田「7年越しのmission completeお疲れ様です(敬礼)。今後の展望は？」
北川「血中濃度を測れば全て解決というわけではなく、血中濃度に依存しない副作用もあり、それらの回避や軽減に向けて取り組んでいけたらなと思います。当センターが、どう世の中に貢献していけるかを考えていきたいと思っています」

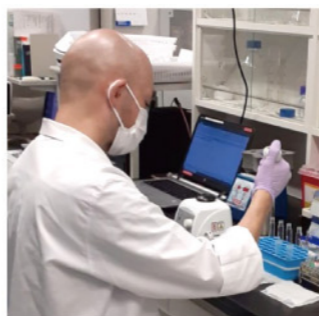
矢田「血中濃度の測定には、高速液体クロマトグラフィーが使われるらしいですね。この装置は一言でいうとどのようなものでしょうか？」
北川「例えば、皆さんが飲んでいるコーヒーの中に、どれだけカフェインが溶けているのかを調べることでできる技術です。混ぜていても、目的の物質の濃度だけを調べることができます」

で、用量調節が難しかったためとても重要になります」
矢田「どうして当センターが先駆けて行うことになったのですか？」
北川「まず当センターは、全国でも3番目にクロザピン登録患者数が多い施設であることです。クロザピン後進国と言われる、日本のクロザピン治療を底上げして改善していくことがmissionであったと思います」

北川「測定法自体を新たに当センターで確立させる必要があり、多くの専門家から知恵を頂きました。キングス・カレッジ・ロンドンの研究員にメールでアドバイスをもらいながら、当センターでの方法を模索しました。患者さんからの採血だけでなく、健常者の採血も必要なので、自分や検査室スタッフの血液を使わせてもらいました」
矢田「まさに血路を開いたわけですね。患者さんにとってのメリットはなんでしょうか？」
北川「航海の海図を得たようなものです。なるべく副作用を回避しながら、より効果的に治療を受けることができます。患者さんだけでなく、処方する医師の葛藤として「これまでは副作用の懸念があつて使えなかった」クロザピンを導入できた」といった現場の声を聞いて私

増員され、入院医療は随分と充実してきました。半面、退院後、地域での生活を再開された方々へのフォローアップはまだ十分とは言えない状況でした。そこで、中島理事長に「退職して地域で訪問看護とリハビリをやってみたいんです」と相談しました。すると、中島理事長は「お、そーか。やってごらん」と後押しをしてくださいました。タウンサークル立ち上げの背景にはそのようなことがありました。

矢田「わかりやすい…。なぜとりわけクロザピンの測定が重要なのでしょうか？」
北川「例えば、風邪薬などは多めに飲んででもそれほど重大な副作用が出にくいですが、クロザピンは、痙攣や健忘、過鎮静、起立性低血圧などの重大な副作用が出てしまうことがあります。また、効果を発揮する濃度と、中毒となる濃度が接近しており、個人差も大きいので



クロザピン血中濃度の測定中

「実際に副作用を回避できた」といった現場の声を聞いて私



クロザピンについて語る北川薬剤師

CEO.Motoshi Yasugi 岡山の訪問看護ステーション タウンサークル便り



1982(昭和57)年に当センターの前身である岡山県立岡山病院に入職され、現在もコンサルタントとして当センターにお勤めの八杉基史氏に近況を伺いました。退職後に立ち上げた訪問看護ステーション立ち上げの経緯や、代表取締役の素顔などをご紹介します。

—当センターでの40年間の軌跡をお聞かせください

皆さん、日頃から大変お世話になってます。「㈱八豊会訪問看護ステーションタウンサークル」の八杉です。私は、1982年に当センターの前身である岡山県立岡山病院に入職しました。それからあつという間に40年が経ちました。その間、県職員の異動で精神障害者の社会復帰施設であった、岡山県立内尾センターにも3年間お世話になりました。それらの地域医療の経験が、現在の私の源流となっています。入職当時は、長期で入院されている患者さんが多く、現在の当センターの病床回転率とは比較に



釣りクラブ

—タウンサークルの立ち上げの経緯は？

2014年3月末に長年お世話になった当センターを退職し、訪問看護ステーションタウンサークルを一足早く退職していた町和夫氏と一緒に立ち上げました。他にも既に当センターを退職していた看護師にも声をかけ、仲間に加わってもらいました。その頃、当センターは精神科救急病院としての役割を遂行し、病床回転率も高く、短期入院化が進んでいました。医療スタッフ数も大幅に



(左より)管理者の大東さんとエリア長の八尋さん

—タウンサークルでのやり甲斐は？

開設当時、当センター周辺にお住いの方々の訪問が多かったのですが、徐々に訪問エリアが広がり、いわゆる医療過疎地にも訪問することが増えてきました。エリアによって同じ県内でも地域の特徴があります。どのような地域にお住まいであったとしても、利用者にとって住み慣れた地域で暮らしていくことには意味があり、利用者の方々の生活に触れることで、今私たちにできることは何だろうと自問自答しながら関わりを深めていく過程が、訪問看護



利用者の家庭菜園

—休日は何をして過ごしていますか？

休日は月に1回程度、旧県立岡山病院時代の1983年に発足した釣りクラブが開催されるので、OBや現職の方々と一緒に尾道の渡船を利用して愛媛県の伯方島周辺の釣り場で主にチヌ(黒鯛)、メバルを狙って釣りに出かけています。ボウズの時もありますが、私は海に近いところで育ったせい、潮風と広い海をボンヤリ眺めているだけで心が和みます。もちろん釣行以外でも、瀬戸内海に浮かぶ芸予諸島を結ぶ、通称「しまなみ海道」をドライブしながら釣りポイントを探すのが楽しみとなっています。

8月30日、岡山西警察署・交通第一課長の田村洋史さんを通第一課長の田村洋史さんを講師に招き、安全運転研修を開催しました。冒頭から県内の交通事故発生件数に驚かされ、事故が起きたことで当事者や周囲にもたらす影響について深く考えさせられました。

また、事故防止のため、運転前の車両・体調点検、車間距離保持や3秒前には方向指示器を出すこと等、守るべき「防衛運転の励行」を再確認し、運転中の通話方法など職員の身近

安全運転研修



講師の岡山西警察署
交通第一課長の田村洋史さん

な疑問についても法令に基づき丁寧に説明していただきました。

交通事故撲滅に取り組む生の声を聞き、「ハンドルを握る責任」を痛感させられ、非常に意義のある研修でした。

(保安室長・鷹取方裕)



約40名の職員が参加しました



依存症に関わらず、精神科看護のポイントは、時間をかけて患者さんに伴走すること

去る8月8日、「新任者研修〜依存症と発達障害の看護〜」が開催されました。講師はそれぞれの分野で活躍する青木看護師と奈義良看護師で、入職1年目の看護職員に対し講義を行いました。

青木看護師からは、依存症は脳の病気だということや、依存症看護の心構えについての説明がありました。奈義良看護師からは、中2児童思春期入院棟での事例を挙げて、発達障害の特徴、対応方法と成果が紹介されました。いずれも専門性の高い分野なので、今後も継続して勉強会、研修会を実施していくことが大切だと思います。



子どもだけでなく、家族を支えることも私たちの重要な役割

新任者研修〜依存症と発達障害の看護〜

①毎日エネルギー！！

子どもたちの元気を、エネルギーにひびくし、助けられる毎日



REPORT MEETING

看護部 部署報告会

うれしかったこと

〇できないことができるようになったとき
入退院の手帳や手帳など少しずつできることが増えることがとてもうれしいです。

〇患者さんの回復がみえるとき
日々のかかりの中で表情が柔らかくなるなど患者さんがよくなっていく姿をみると涙も吹き飛びます。

9月13日(火)、入職1年目の看護師による「看護部部署報告会」が行われました。半年間、各所属で自分たちが経験してきたことを、分かりやすくスライドでまとめ、緊張しながらも堂々とした口調で発表してくれました。

入院棟によって、機能も患者さんの特性も異なります。それを先輩や患者さん本人から学び、接し方を自分なりに考えながら日々業務に取り組んできた様子が、手を取るように伝わってきました。

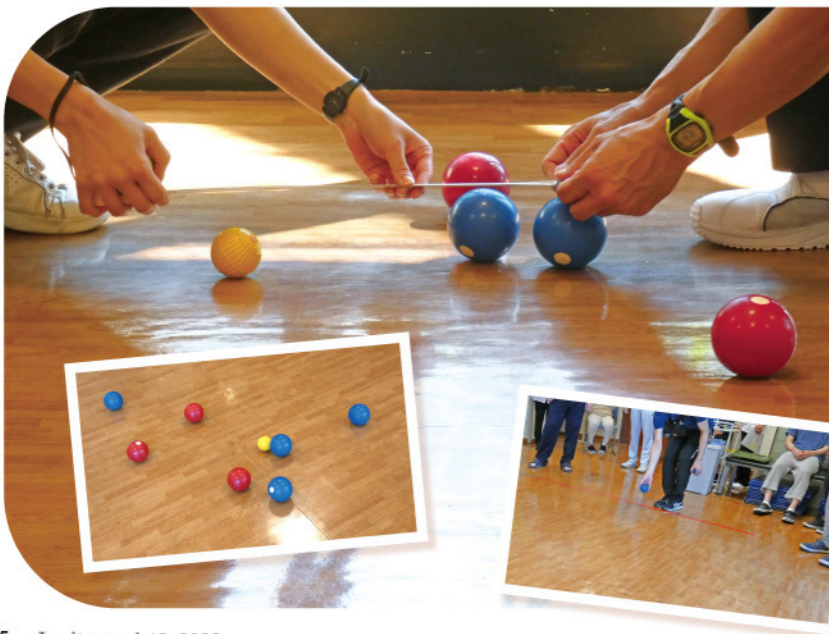
コロナ禍でストレスが多い中、セルフケアしながら成長した姿が見られて嬉しい気持ちと、プリセプターをはじめとする先輩方への感謝の気持ちでいっぱいです。今後も初心を忘れず、多くのことを吸収して行ってほしいと願います。



ボッチャ大会開催

「ボッチャって何?」と思われた方が多いと思います。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツで、発祥は歴史も古く紀元前6世紀ヨーロッパでイタリアと言われています。

ボッチャの魅力と言えば、男女年齢問わずゲームを楽しめる競技で、パラリンピックの正式種目でもあります。東入院棟内で何度か実践していますが毎度盛り上がっています。今回初めてボッチャ大会を試みました。今後もセンター内でできる競技として各入院棟でも患者さんと楽しんでいただければ幸いです。(看護師・熊倉勇)



T O P I C S

医療観察法と 司法精神科作業療法 「臨床ハンドブック」

2022年8月15日に出版されたこの本を、分担執筆させていただきました。過去8年間、東入院棟(司法精神入院棟)の作業療法士として勤務した後、指定通院医療や相談支援専門員として支援に加わっている経験をまとめる機会になりました。精神疾患の影響により重大な他害行為を行った人の社会復帰を促進するためには、様々な角度からの支援を考えることが必要です。私の執筆した箇所では、人生を川の流れるようにとらえて、その人自身とその人を取り巻く環境のバランスをとりながら、生活を回復する作業療法の実践「川モデル」の司法分野への適用例を書いてみました。司法分野に限らず、困難な状況に直面している人の支援を考える際にも応用が可能なかと考えています。ご興味のある方は一読いただければ幸いです。(作業療法士・奥田真由美)



編者：南庄一郎(大阪府立病院機構 大阪精神医療センター リハビリテーション室)
著者：棟近展行(南庄一郎、岩根達郎、奥田真由美、村田雄一、立山和久、岡庭隆門、菊池善介、岩井邦寿、児玉和也、高岡崇)
出版社：株式会社CBR(シービーアール)

地域連携室だより 読書の秋

朝晩涼しくなり、季節は秋へと移り変わり始めました。
スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋…そして読書の秋。
本を読むのにぴったりの季節ですね。スタッフおすすめの
本をまとめました。ぜひ、手に取ってみてください。

作業療法士・奥田のオススメ

著者：小道モコ
出版社：クリエイツかもがわ

あだし研究
ありのままにその人らしくいける社会を
自閉症スペクトラムの特性や困っていることをか
わいイラストを交えて、分かりやすく解説！著者・
小道さんの体験を踏まえた具体的な事例が書か
れています。保護者や支援の方に、ぜひ読んでほ
しい一冊です。

医師・古田のオススメ

ひとりひとりの個性を大事にする
にじいろ子育て

著者：本田秀夫
出版社：講談社

子育ては十人十色
にじいろ子育て=十人十色の子育てがあること。
発達障害の子どもだけでなく、子育て全般にあて
はまる日々のあらゆる出来事について、どのように
受容と対応したら良いか、日々、奮闘する親・先生
には、目から鱗の一冊です。

管理栄養士・井川のオススメ

ホスピめし みんなのごはん

著者：野崎ふみこ 出版社：双葉社

食べることは生きること
病院で勤務する管理栄養士が主人公。食べるこ
とは生きること。ごちそうが出るわけではないが、食
べることの喜びを感じられる作品です。心がほっこ
り、涙ありの一冊となっています。

公認心理師・藤田のオススメ

大人の発達障害
仕事・生活の困ったによりそう本

監修：太田晴久 出版社：西東社

発達障害の対処方法を知りたい方
職場や日常生活での困りごとに対する工夫を知り
たい方におすすめの本です！イラスト付きで、具体
的な対処方法もついています。気になるページが
あれば途中からでも読める一冊となっています。

外来看護師一同のオススメ

ツナグ

著者：辻村深月 出版社：新潮社

あなたがもう一度会いたい人は誰ですか？
「アイドルの心得」では、家庭環境や人間関係などの
影響でうつ病を発症したOL・平瀬愛美と突然死した
アイドル・水城ササリの面会を描いています。ササリと
再会した愛美は、アイドルのすごさに圧倒されながら
も、前向きに生きていこうと決意し…その後はぜひ読
んでみてください。生死についての考え方や、人生を
前向きに生きていくヒントが得られるかもしれませんよ。

精神保健福祉士・江村のオススメ

世界一やさしい依存症入門
やめられないのは誰かのせい？

著者：松本俊彦 出版社：河出書房新社

依存症やめられないのはなぜ？
14歳に向けて書いた依存症のお話。若者がどの
ように回復したかも書かれており、希望が持てるも
のになっています。中高生だけでなく、悩んでいる
親や大人にも、おすすめの一冊です。



確かに存在していると感じるが、
見えるものではなく、
一言で説明できない「人薬」

INTERVIEW 副院長／東(司法精神)入院棟医長・石津すぐる

「人薬」の実態

「人薬」とは何だろう。
精神科に関わっていると確
かに存在していると感じるけ
れど、見えるものではないし、
一言で説明できるものでもな
い。実態が掴めず、しばらくは
安易にこの言葉を使わないよ
うにしていました。ところが、
今回この文章を書く中で、自
分が「人薬」という言葉を、実
感を持って使えるようになって
いることに気づかされました。
それは多分、医療観察法の
患者(対象者)さんの治療をす
るようになった影響だと思
います。

一人ひとり オーダーメイドの治療

平成26年4月から東入院棟
の担当となって、臨床的には、
医療観察法の入院患者(対象
者)の治療が精神科医師として
の中心的な役割となって現在
に至っていますが、東入院棟で
は殆どの患者さんが治療抵抗
性統合失調症で発達障害やト
ラウマの問題が基盤にある場
合も多く簡単な治療は無いと
いっていい入院棟です。東入院
棟の多職種のスタッフおよび
東入院棟以外の多くのスタッ
フの協力を得ながら、様々な介
入(治療)方法を駆使し、一人ひ
とりオーダーメイドの治療を
している感じます。

安心感や自己肯定感を 高めることが最も大切

一方で、患者さんの立場から
東入院棟の治療を見てみると
どうでしょうか。自分が医療観
察法の対象者になったことを
想像してみたら分かりますが、
重い精神疾患(殆どが統合失調
症)を患い、その上に大きな事
件を起している、病状が不安
定な時期やストレスに脆弱に
なっている状態で、その事件に
向き合わされるのは、やらない
といけないのは分かりますが、
負担の大きさを考えるとた
まったものではありません。患
者さんの立場に立つと、重い疾
病や事件によって生じた過酷
な現実に向き合うためには、十
分に保護因子を強化しておく
ないといけません。クロザリル
での薬物治療とか発達障害や
トラウマへの心理社会的な治
療など専門的な治療はもちろ
ん重要なのですが、それよりも
先に、そして常に並行して行
うべき普遍的で最も大切な治
療的なアプローチがあって、そ
れは「患者さんの安心感や自己肯
定感を高めることである」とい
うことを日々臨床の中で実感
しています。この安心感や自己
肯定感の創出(提供)について
は、医療観察法のガイドライン
には書いてないですが、医療観
察法医療では特に大切なこと
だと感じています。もちろん、

自己肯定感を 創出するために

この安心感と自己肯定感とは、
どうやって創出し、提供する
かといえば、患者さんに人として
声掛けをしたり、寄り添った
り、一緒に活動したり、時間を
共に過ごしたりということ。東
入院棟の治療に関わる中で、ス
タッフが提供している安心感や
自己肯定感の大切さについて考
えているうちに「ああ、これは
『人薬』以外の何ものでもない
な」と思い至り、ようやく自分
の中で実感を得た訳です。
新型コロナウイルス対策を講じ、
東入院棟では自己肯定感を創
出するために、誕生日会や歳時
記を大切にしています。考えて
みれば、東入院棟で大事にして
いる「人薬」的なことは、我々が
幼い頃に家庭や幼稚園・保育園
でまわりの大人たちにやって
もらった事ばかりなのです。自
分が、幾らか困難な事があつて
も社会の中で心が挫けず何
とかやっていけているのも、子
供の頃から周囲の大人たちに
守られ存在を認めるメッセー
ジをもらい続けた「人薬」の貯
金があるからなんだなと感じ
る今日この頃です。もちろん、
今、一緒に働いている「仲間」か
らの「人薬」にも支えられてい
ますよ。

詳細は地域連携室までお問い合わせください

地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター

■ 連携室直通 / tel.086-225-3833 (9:00~16:30)
fax.086-225-3855

■ 住 所 / 〒700-0915 岡山県岡山市北区鹿田本町3-16
■ 代 表 / tel.086-225-3821 (24時間対応)



EVENT REPORT



東古松サクト診療所
初めてづくし♡

デイケア

サクトデイケアでは、日々の楽しみを見つげるために、様々な活動をしています。今回は、初めての体験がたくさんありました。

まずは「Tシャツ作り」。自分たちで好きなイラストや写真を選んで印刷し、Tシャツにプリントをしました。お気に入りの1枚が完成。夏の間に着ることができました。

次は「日本デイケア学会の合同プログラム」にWebで参加しました。ネットで全国のデイケアと繋がり、ビンゴ大会とクイズ大会に参加しました。ビンゴ大会は2位、クイズ大会では1

位となり、後日賞品が届きました。

そして秋の「サクト喫茶」では、初めて煎茶でのお茶会を行いました。ボランティアで「煎茶道 阿流」の三宅草歡先生にお越しいただき、秋を感じるしつらえ、お点前を拝見しながら、一煎目、二煎目と味の違うお茶を楽しむことができました。一煎目は、少量ですが、甘味や香りを感じる一杯で、利用者の方から「昆布のよう」との感想がありました。二煎目は少し、渋みとまた違う甘味を感じる一杯で「さつきと違う」味わいを楽しみました。



デイケア学会の様子



お気に入りのTシャツが完成!



香りが漂ってきます



三宅草歡先生に教えていただきました



着物姿のスタッフ。お茶会の雰囲気はピッタリ!



岡山県精神科医療センター デイケア
大型扇風機とサーキュレーターを新調し、快適な環境下でのイベント開催!

7月の「七家宝探し」は大盛況! 密を回避するため2チームに分かれ別々の部屋で「宝」と書かれた封筒を隠します(皆さん、機転の利いた場所に隠していました)。そして部屋を入れ替え「宝」を探します。「宝」には七々にちなんだ絵パズルの片割れが入っており、2枚で1枚の絵を完成させるルール。そのためには誰かに呼びかけなければなりません。織姫と彦星が出会う、マッチングの要素がありました。マッチングできると福引きができます、当たれば豪華賞品ゲット! 参加賞もありました。

8月は「夏祭りウィーク」。コロナ感染拡大予防のため小規模での開催となりましたが、期間中ラムネとお菓子のつかみ取りを行い、お祭り気分を存分に味わうことができました。

9月は防災意識を高めるため、防災オリエンテーリングを実施しました。防災に関する問題を解き、全問正解者には、お湯や水を注ぐだけで完成する「携帯おにぎり」をプレゼント。消火器の場所の確認など、地震発生時の正しい行動を知ることができ、実践に生かせるプログラムでした。



夏祭りウィークの様子



封筒の中には絵パズルの片割れが...



防災オリエンテーリング「正解はどれかな〜」

景品は非常食の携帯おにぎり「全問正解したよ〜」

編集後記

急に寒くなってきましたが、皆様体調を崩されていませんか? 寒さを感じると、つい肩に力が入って肩こりや頭痛を引き起こしやすいくなりますよね。私も年中肩こりなので、丸い磁気シールが手放せません。

東洋医学では、「風門(ふうもん)」というツボから邪気が入り、風邪を引き起こすと言われています。このツボを押ししたり温めたりすることで、風邪を予防できると考えられているそうなので、皆様もぜひお試しください。

(事務部・志茂香代子)

※風門: 背の上、肩甲骨の間にあつツボ。



夏のイベント食、「味仙ラーメン」です。食欲をそそりますね〜。

Jupiter

2022年
秋号
VOL.48

2022年10月31日発行

発行人 中島 豊爾
編集人 来住 由樹
発行所 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター
岡山市北区鹿田本町3-16
TEL.086-225-3821代
ホームページ <https://www.popmc.jp>
制作協力 ㈱あどりえ、ぼう
印刷所 友野印刷㈱